

見されている。築城町松丸D遺跡でも、直径五・一―五・六メートルの円形の住居跡が発見され、中央部には炉跡が検出された。遺物は晩期中葉の土器片と姫島産黒曜石の石鏃と結晶片岩製打製石斧片が出土している。椎田町山崎・石町遺跡では、晩期初頭ないし前半ごろの甕棺墓が二基以上発見されている。団後遺跡は、豊前市北部の角田川右岸に位置し、標高は二五メートル前後である。晩期の遺構は住居跡二軒が発見され、そのうち3号竪穴住居跡は楕円形に近い平面形をなし、土器とともに姫島産黒曜石の石鏃や石皿・作業台・石斧などが出土した。時期は中葉に属する。

これらのほかに、苅田町浄土院遺跡、行橋市畠田・長通遺跡、豊津町神手遺跡、犀川町自在丸遺跡、寺門遺跡、清四郎遺跡、五反田遺跡、築城町伝法寺遺跡、椎田町小原岩陰遺跡、豊前市小石原泉遺跡、大平村土佐井遺跡、川下遺跡、原井三ツ江遺跡などでこの時期の遺物が出土している。

二 集落と墓地

集落と住居

京築地域の縄文時代の遺跡のうち、竪穴住居跡が確認された遺跡は、後期と晩期に限られている。なお、後期については、近年集落単位の確認例が増加している。

集落の立地環境についてみると、豊津町節丸西遺跡、椎田町山崎・石町遺跡、豊前市中村石丸遺跡、大平村土佐井遺跡のように、中小河川の自然堤防上ないし後背地に立地し、その背後には低丘陵が延びる共通性をもっている。この時期、沖積平野はまだ形成されておらず、集落を営む十分な平坦地が少ないため、水や

食料の獲得しやすい場所が選択されている。集落の規模については、全体を調査した事例がまだないため即断はできないが、節丸西遺跡では周辺のトレンチ調査などから約一万八〇〇〇平方メートルの範囲に遺構・遺物が存在することが確認され、中村石丸遺跡でも遺跡全体の広がりは約四〇〇〇〜五〇〇〇平方メートル程度と考えられている。ただし、同時に存在した住居は四、五軒で、集落の構成人員は二〇〜三〇人程度であっただろう。

住居跡の形態についてみると、前葉の小池原上層式の時期では、土佐井遺跡で平面形が直径四・五メートル前後の円形をなす竪穴住居跡（6号住居地）が確認されている。中葉の鐘崎式の時期には、山崎遺跡1号・3号・7号住居跡は隅丸方形または不整形円形の平面形で、四〜六・四メートルの規模を持つ。これらの住居跡の屋内炉は



土器炉



石組み炉



地床炉



石組み炉

第20図 縄文時代の各種炉跡

石組み炉である。次の北久根山式の時期では、山崎遺跡2号住居跡が長径八・五メートルの不整円形をなし、石町遺跡1号住居跡も長径七・四メートルの不整円形をなす。屋内炉は土器炉になっている。後葉の西平式の時期になると、原井三ツ江遺跡では四・五メートル程度の規模で、床面に地床炉を持つ住居跡がある。また、土佐井遺跡5号住居跡でも中央部に径六〇センチメートル程度の地床炉が設置されていた(第20図)。

墓 地

埋葬施設としては、後期から晩期を中心に甕棺墓や土壙墓が発見されている。浄土院遺跡では甕棺墓二基、山崎・石町遺跡では甕棺墓三基、十双遺跡では土壙墓一基、松丸D遺跡では甕棺墓四基、中村石丸遺跡でも甕棺墓四基・土壙墓一基などがある。なお、小原岩陰遺跡では前期に属すると考えられる土壙から人骨が出土している。一般的に墓地の設置場所は集落内部かまたはその周辺であるが、山崎・石町遺跡、中村石丸遺跡では集落内部から埋葬施設が発見されている。

三 生産活動

京築地域での食料獲得を中心とした生産活動に関連する遺物の主なものには、打製石斧・磨製石斧・削器・石錐・砥石・石匙・石鏃・石鏃・石鏃・磨石・磨石・敲石・石皿・台石などがある。これらの石器は、食料の獲得以外にも、食料の調理や、道具を作るための道具として使用されていた。

狩猟活動

縄文時代の最も一般的な狩猟用具は弓矢であり、石鏃は矢の先端に装着される石器である。石材は、大分県姫島産や佐賀県腰岳産の黒曜石と、安山岩とが利用されている。狩猟関連遺